

E 3 若年層の生活意識と生活の行動様式(その3) 食生活行動について  
金城学院大短大 ○生川浩子 椋山女学園大家政 山口久子  
愛知大短大 高桑絵子

目的 食生活の意識と行動を究明することは、「健康」という価値実現に欠せない問題である。本調査では、食生活を食物のみでなく、嗜好品にも範囲を広げ、コーヒー・アルコール飲用の習慣や、今日問題となっている喫煙の習慣と、それに対する態度も調査し、若者が自分の健康に対しどのような姿勢をもっているか、ことに高齢化社会に向い、はたして長期展望をもった食生活を営んでいるかについて分析を試みた。

方法 前発表と同対象に、食生活に関する意識と行動の分野について調査を行なった。調査条件その他分析方法は、前発表と同様である。

結果 全体として年齢が近いためか数量化Ⅲ類簡易分析によると、原点近くに結果が集中し特に大きい差異はみられなかった。勤労者と学生、男女に分けて分析を試みたが、性別による差と、身分の差に起因する収入の有無と、生活時間中の自由時間量が大きく影響を与えているように推測された。また、勤労者男子群でやや他と異なる傾向がみられ、社会で活躍する若者像の一端が伺える。「健康」の価値実現のため「安全・栄養」を考えるものの行動は必ずしも一致しないようにみられる。以下要約すると、1) 各群間の差は小さい。2) 食物選択基準の順位は「おいしさ」、「栄養価」、「製造年月日」、「価格」。

3) 食料費を他の費目より重視する考えは少ない。4) 女性で規則正しい食事を重視する態度がみられる。5) 女性は牛乳、男性は清涼飲料の飲用が高い。6) 男性は即席麺などの簡便性への志向傾向がみられた。7) 男性で嗜好性飲料飲用や喫煙の習慣が多い。8) 学生女子で美容目的の食事調整が僅かにみられた。